

ろ。

馬場の並木の松籟を聞くとき、それは当時の有様を物語っているかのようで、うたた今昔の感に堪えない。

文武両道を目差した馬術指南役・関谷直右衛門先生の感懐は、いかなるものであろうか。

## 表紙解説

### 深島にある役行者碑

えんの

本名は役小角（えんのおづの）。奈良時代（七―八世紀）大和国葛城山にいた呪術者。世を惑わす妖言を吐いたとの理由で讒（ざん）せられ、伊豆に遠流された。

彼は山岳信仰を楯にしたシャマン風なものであったが、後世、密教が山岳信仰界に浸潤してくるに及んで、彼を理想的祖師と仰ぐ傾向が強まっていった。その呪術のすぐれていたことを讃え、伊豆を中心に各地の山頂から山頂へと飛びかける、たくましい一本足駄履きの姿を理想像に描くようになった。

密教は山間幽邃<sup>すい</sup>神秘の雰囲気のみを登って苦行し、その修練の結果を力にして呪験力を高めようとする験者<sup>けんざ</sup>を生んでいったが、彼らの間に役小角祖師観が育っていった。そして役行者という言葉が、彼を呼ぶ語として平安期以来熟していった。

とくに大和の金峰山は、貴顕あるいは験者の山岳登拝修行場とされ、さらに大峰山から熊野山にかけて彼らの中心的な道場が開かれるに及んで、役行者はこれらの山山と関係をもった人物であるかのように伝説化した。

ついに各地の霊山には、どこでも役行者開創を伝える話ができるに至った。そして験者の系統である山伏の開祖とされ、修験道（しゅげんどう）界第一の先達と仰がれている。

この碑は深島に山岳信仰があつたあかしである。

（河出書房版 日本歴史大辞典より）塩月